

## 第7回町田市地域福祉計画審議会 議事録

日 時：2021年11月22日（月） 19：00～20：30

会 場：10-2 会議室（オンライン会議）

出席者：

審議会委員：宮城孝会長、佐藤繭美委員、増子達也委員、長崎敏宏委員、  
鯨岡健人委員、中村伊佐夫委員、町野真里子委員、新井邦夫委員、  
安達廣美委員、森公男委員、陶山慎治委員、馬場昭乃委員

事務局：地域福祉部 中村部長

福祉総務課 三浦担当課長

総務係 土方係長、寺井担当係長、一面主事

事業係 八木係長

㈱生活構造研究所 柏木氏、近藤氏

関係課：市民協働推進課 渡辺担当係長、安達担当係長、谷口主事

市民生活安全課 山岡課長

町田市社会福祉協議会：井藤課長、仲泊係長

欠席者：

審議会委員：村田隆行委員、岡田栄委員

資 料：

【資料1】（仮称）町田市地域ホッとプラン（案）

【資料2】（仮称）町田市地域ホッとプランの第2部「わたしの地区の未来ビジョン」  
について

【資料3】（仮称）町田市地域ホッとプランに関するパブリックコメント実施結果概要

【資料4】（仮称）町田市地域ホッとプランパブリックコメント実施結果

議 事：

### 1. 開会

(1) 地域福祉部長あいさつ

(地域福祉部長あいさつ)

### 2. 報告事項

(1) パブリックコメント実施時における素案の修正点について

(事務局 資料1説明)

会 長：前回、ご意見をいただいた点の修正についてである。問題解決人という言葉については、パブリックコメントでもご意見をいただいている。事務局からは検討中という説明もあった。皆さんからご質問、ご意見等はあるだろうか。

(なし)

それでは、報告事項の「(2) わたしの地区の未来ビジョン」の進捗状況について、事務局から説明をお願いしたい。

## (2) 「わたしの地区の未来ビジョン」の進捗状況について

(事務局 資料2 説明)

会 長：地区別のホットプランである第2部について、事務局から今後の作成スケジュールの説明があった。前回策定時は、第2部もある程度できていたのだが、ご承知のように今回コロナ禍で長い期間、地区で集まることが難しいこともあった。事務局から説明があったように、まずは1月から3月で地区別懇談会を行い、3月から8月に地区ミーティングを行うことで、一番下にある「わたしの地区の未来ビジョン」という目指す方向性を策定する、という案である。

前回のよう各地区別での高齢化率や要介護認定率、障がい者の方たちの人数など、住民の皆さんに地域の状況が分かるデータを分かりやすく示していただき、それを基に皆さんで将来像をご検討いただく作業を、私から事務局をお願いしている。

私からは以上だが、この「わたしの地区の未来ビジョン」について、ご質問、ご意見等いかがだろうか。ある方はミュートを外していただいてご発言いただければと思う。

委 員：お伺いしたいのだが、資料の(1)「② 各地区での地区ミーティング」のところで、地区協議会を中心とする地域活動団体によるミーティングと書いてあるが、集まっていただく方たちは、今までの地区別懇談会にお呼びした団体と同じなのか。それとも、今回また違う団体にお声かけをするのか、お伺いしたい。

会 長：パブリックコメントでもその辺りのご意見が書いてあった。大事な点だと思う。事務局、いかがか。

事 務 局：これまでチラシを中心とした広報を行ってきて、そのアプローチ先も今まで同様のところになっていたが、今回は少しやり方を変えて、例えば中学校や高校、大学、また子育て世帯の方といった若い方のほか、企業の方など、幅広い方にご参加いただけるようにアプローチ先について検討している段階である。実際に、今後アプローチを行っていきたいと考えている。

委員：今までは地域でボランティアをやっている方たちにお呼びかけして集まっていたが、そういう方たちも含めて今度は学校関係などをお呼びするということか。

事務局：委員のご指摘のとおりである。

委員：分かった。

委員：こういう地区の課題を解決するときに、例えば市議会議員は全体を通して全く出てこない。議員は地域の問題を解決するためにいる気がする。そういうところとの関係性は全くないものなのか。

事務局：議員の方にもご参加いただいている。

委員：文書の中に議員という言葉が出てきた記憶がないのだが、市の関係者のところに入っているのか。

事務局：市議会議員という表記は特にしていないが、当然ながら市の代表という立場もあるし、地域の一市民という捉え方もある。自由参加にはなっている。前回の地区別懇談会では、議員も出席をされていた経緯がある。

委員：いろいろな会議や地区社会福祉協議会の集まりに出ている、議員の方に会うことがほとんどない。これからは接点があるということか。

事務局：そのとおりである。

委員：もう一つは、こういったミーティングは市のほうから声かけをするのかもしれないが、誰が選ばれるのかを公平にする手立てはあるのか。私も地区社会福祉協議会に声をかけてもらい参加しているが、別に選挙に受かったわけでもなく、公平に選ばれたわけでもない。こういう地区の物事を決めていくのに公平性を担保する仕組みはあるのか。

事務局：地区別懇談会は、自由参加で誰でも迎え入れている状態なので、その辺の公平性は担保されていると考えている。

会長：主催は町田市なのか地区協議会なのか、それともこの地区別懇談会は共催で行うのか。

事務局：市と社会福祉協議会が共催で行う。

会長：地区協議会はそこには入らないのか。

事務局：市から地区協議会にお願いをして、動いていただいている。

会長：日程も、皆さん見ていただければ分かるように土曜日と日曜日である。事務局は大変ご苦労だが、勤労者の方も参加しやすい配慮をしていることは大事である。また、参加できない方もいろいろな事情があると思うが、そういう方のご意見もいろいろな形で、地区別で受けることも大事ではないか。地域福祉計画自体にも関心を持っていただく、また、まちのことを考えるきっかけづくりにしていくのも大事だと思うので、ぜひ配慮をしていただきたい。学校にも働きかけをしてもよいのではないか。

事務局：先ほどの質問に補足させていただきたい。来年の3月から8月で行う各地区での地区ミーティングについては、地区協議会の皆さま以外に地区別懇談会に参加いただいた方にも、会の終わりに地区ミーティングを行うことをアナウンスする。地区別懇談会に参加いただいた方には、ぜひとも地区ミーティングへの参加をお願いしたいとアナウンスを差し上げる予定である。地区協議会を中心として進めていくが、その他の方も参加できる部分を残しながら進めていく。

委員：最初説明されたときは、市と社会福祉協議会で開催するという話があったと思うが、かなり地区協議会からアプローチをかける動きもしている。主催はどちらなのかを明確にしてもらいたい。我々としてもいろいろな指示を出して、やり方も考えなければいけない。説明する人によって違ってきているのが一番問題になるのではないか。

会長：3月から8月の地区ミーティングの進め方は、地区協議会の役員には説明をしているのか。

事務局：また説明の補足をさせていただきたい。今回、地区別懇談会の開催に当たっては、先ほど市と社会福祉協議会が共催で開催するという話をしたが、ただ今、各地区にお伺いして、地区協議会の皆さまに協力という形で参加をお願いする形で進めている。市と社会福祉協議会だけで行うわけではなく、地区協議会の皆さまにご協力をいただきながら進める考えである。

そういう意味でも、地域の皆さまと一緒に地区別懇談会を進めて、地区ミーティングでブラッシュアップを行う。地区協議会の皆さまは、地域で最も核として活動されていると認識しているので、その皆さまと一緒に地域のネットワークを広げながら、よりよい地域のホットプランをつくり上げていきたいと考えている。

会長：初めから地区協議会協力と入れたほうがよいかもしれない。行政と社会福祉協議会がやって地区協議会はあまり関係しないというと、主体性が発揮できないとややこしいだろう。それも含めて説明時に協力依頼もしっかりされておいたほうがよいのではないか。

このコロナでだいぶ地域活動が縮小されたり、会議が思うようにできない状況が1年半以上続いたと思う。この1月から半年くらい、逆にコロナ禍からの再生で地域活動を活性化し、さらに復活させていくには、このプロセスは非常に重要と思う。行政や社会福祉協議会を含めてだが、地区協議会の皆さんの協力をいただきながら十分な話し合いをしていただく大事な機会になるのではないかと、期待も込めて考えている。

陶山委員、鶴川地区の状況はいかがか。社会福祉法人への働きかけは大事ではないかと思う。

委員：気持ちとしては「取りあえずやってみよう」というのが本音である。立場としては高齢福祉、高齢者の方の介護保険を中心とした事業所の代表で出ているが、市全体では10地区、いろいろな地域特性があるし、地区協議会の存在の仕方や構成団体もさまざまなので、同じようにやろうというのもなかなか難しいと思う。そういうことで、先ほど言った「取りあえずやってみよう」と思っている。

町田市全体の高齢者の介護保険事業所の代表という立場であるが、特に地区別懇談会でいうと、私は鶴川地区協議会で活動している。宮城会長もおっしゃっているように、この地区別のホッとプランができれば、それをやるのはそこに住んでいる自分たちだということを前提にして話し合いをしたいと思っている。オール町田のホッとプランは、行政の方たちがというところもどこか意識としてはあるのかもしれないが、自分が大切に思って住んでいる地域の計画を自分たちがやるのだというほうがよいので、その活動において自分ができることを話し合うと書き加えていただいていると思う。

地区協議会も、社会福祉協議会と行政がやるのであれば、できることを応援するし、一緒にやりましょうというところもあるかもしれない。その地域ごとのオーダーには柔軟に対応していただきたい。

地区協議会自体に鶴川地区の大学や高校、中学、小学校、PTAなどが全部入っているのので、地区協議会に通知を出すと比較的若い人たちや、宮城先生がおっしゃられたように社会福祉法人の連絡会、障がいと高齢と保育園に情報が伝えられると思う。

あとは、鶴川地区社会福祉協議会には活動団体がたくさん入っているので、そこに通知をしていく形になる。町田市全体の地域の特性に合わせて一律にするのはどうなのかという気はする。「地区協議会がやってください」と言うと反発するところもあると思うので、そこは少し地区別のさじ加減があってもよいのではないか。

会長：地区協議会の状況を見ながらやっていただければと思う。また1月の最後の審議会では、1月から地区別懇談会が始まるから準備状況は多少報告できるだろう。

委員：陶山委員がおっしゃっていたが、地区協議会は各地区でかなり温度差があると思う。非常に盛んで、いろいろな団体が構成団体に入っていて、動いているところは、地区協議会を中心にやってもきっと活発な意見がたくさん出てうまくいくと思う。

ただ、私どものほうはほとんど動いていないので、今日も「チラシをつくって、南地区協議会の存在を皆さんに知らせてはどうか」と私が言ったくらいである。そういうところで地区協議会を中心にとっても、なかなか難しい。構

成団体は一応あるのだが、あまり活動にも参加していないところもある。

であるから、地区ごとに考えていただき、地区協議会が動いていないところは、いろいろなボランティアをやっている方たちはたくさんいるので、例年のようにそういう方たちを呼んでやっていただけたらありがたい。

事務局：市民協働推進課からご回答する。南地区は、夏にお伺いさせていただいたときにも、ぜひこの地区別懇談会を機に盛り上げていこうというご意見があったと思う。

もちろん、おっしゃるとおり各地区で状況が違っている。今、我々で地区を回らせていただいているが、どのようなことを話しているかという、まずどのような方をお招きするかを、地区協議会や地域の方と一緒に考えている状況である。今回は、今まで参加がなかった方々もお招きしたい思いがあるので、我々ももちろん声かけはしていくのだが、地域の人しか知り得ない情報や、地域の方しか知らない方々はたくさんいらっしゃる。そういった方々をぜひ一緒に検討したいと考えている。地区別懇談会の開催は1月から3月ごろを予定しているが、今から動いている状況である。地区によって状況は違うので、実際の懇談会も多少、形式など少しずつ違いはあるかもしれないが、そういう形で今準備をしている状況である。

委員：以前、委員の皆さんとのやりとりの中でもあったが、町田市のとプランと各地域のとプランが全然違うものにはならないのか、なってしまったらどうするのかという話があった。学生やそこに住む若い世代の人たちに参加していただき、自由に意見をいただきたいのはもちろんだが、実はこういった委員や行政の人で町田市のとプランをつくっていこうという組織があるということ、分かりやすく説明ができるものがあるとよい。せっかく地域の人が集まって自由に意見交換するとき、あまり行政の説明が長くてもいけないと思うが、実はこのようなことを委員の皆さんと決めて動かしていこうと思っているということを伝えたいので、地域の特性に合わせてどうするかを話し合えるようになればよい。

上位計画という位置付けではないが、それとまるで準拠しないもの話し合いだけどんどん進めていくのは違う気がする。必ずしもこれに縛られるものではないという前提で申し上げる必要はあると思うが、そこを子どもたちにも分かりやすいものが何かあればよいのではないかと。分かりやすい要約版で、簡単な、すぐに説明できるものがあるとよいと常々思っている。

会長：リーディングプロジェクトや基本目標は、小学生、中学生だと少し分かりやすくしないといけない。陶山委員がおっしゃるように、小中学生用は少し考える必要はあるかもしれない。大事なご意見である。地域の特性も、それほど細かくなくてもよいのだが、地域の課題はどういうことがあるかを住民が知るよ

うなデータがあるとよい。ただ説明があまり長くなってしまうと話し合いの時間がない。これまでも経験があると思うので、十分に意見交換できるような時間の配分の仕方を詰めていただいて、ぜひ成功させていただきたい。

このコロナ禍ではみんなで集まることができていない。第 6 波がないことを祈るだけだが、来たらまた考えなければならないと思う。

それでは、協議・検討事項に入りたい。パブリックコメントの結果について、事務局から概略の説明をよろしくお願ひしたい。

### 3. 協議・検討事項

#### (1) パブリックコメントの結果について

##### (事務局 資料 3. 4 説明)

会 長：事務局からパブリックコメントの実施結果について説明があった。私もいろいろな自治体の計画関係でこのようなパブリックコメントを経験しているが、49 名の方から 122 件のご意見をいただいたのは、私の経験では最も多い数だと思う。そういう意味では、事務局がさまざまな方法や媒体を使いながら、大変丁寧に周知をしていただいた結果ではないか。まさに今回の地域福祉計画が目指すいろいろな方の参加をというところでは、出発としても大変喜ばしい結果だったのではないかと思う。ぜひ、このエネルギーを計画の実施につなげていきたいと思っている。

民生委員からも多くのご意見をいただいた。やはり住民の参加といっても、無関心な人も増えている。町内会・自治会の加入率等と役員・ボランティアの高齢化は全国で言われていることだが、その中で関心を持ってもらう手法の検討であるとか、関心のある方には積極的に参加してもらうことが重要である。そういう意味では今回、市民協働推進課と一緒にやってつくった計画ということが、一つ大事なポイントではないか。関心を持ってもらう機会をつくるなど、お互いに努力しなければ、どんどん無関心の方が増えていくわけである。いろいろな方たちが、地元で頑張るしかないと思う。

相談支援でもかなりご意見があった。地域福祉コーディネーターへの関心や、横の連携をした縦割りでない相談支援について、課題も含めて、今回の計画を理解したうえで期待もあると思う。この辺りも丁寧な対応を進めていただきたい。町田市は人口 40 万と大所帯なので、相談支援をやっていくにはいろいろなプロセスが必要となる。事務局にも私からお伝えしているが、要綱をつくる、会議の仕方のマニュアルをつくる、計画にもあるが「つなぐシート」などもある。全国でモデル事業も始まっているので、他市町村の経験も踏まえながら、リーディングプロジェクトは、来年度、細部まで含めてぜひご検討いただきたい。

また、パブリックコメントの内容は、市長・副市長も含めて、計画に関わる全ての課にフィードバックするとよいと思う。先ほどの議員の方のこともそうだが、これだけたくさんの意見をいただいていることは武器になる。パブリックコメントの周知の仕方も工夫していただくと一つパワーになるのではないかと思った。

私からは以上だが、皆さんのほうからご質問、ご意見はいかがか。

委員：資料3のパブリックコメント実施結果の概要を見ると、件数で特に多いのが、第4章リーディングプロジェクトの「2 困りごとをなくそうプロジェクト」が19件、第5章の基本目標Ⅲの「基本施策1 支援の輪につながる、つなげる」が22件である。宮城会長がおっしゃっていたように、どのようにネットワークをつくり、地域福祉コーディネーターが機能していくのかというところに関心が高いことが、この数字だけでも読み取れると思う。

やってみないと分からないところはあると思うが、その方向に進んでいこうというときに、機能しやすくするための検討として、町内会・自治会、民生・児童委員、青少年健全育成委員、高齢者・障がい者・子育て支援センターのエリア区分けのことがある。エリアがそれぞれずれているので、それで本当につながりやすいだろうか。3年くらいかけてこれを同じ境目にしていくことで、顔の見える関係ができ、住民もこのエリアでは、この窓口というのが分かりやすくなるのではないか。結果として、地域福祉コーディネーターも機能しやすくなるのではないかと思う。

簡単な話ではないというのは重々理解しているが、このことをリーディングプロジェクトの中で検討していくのはどうか。今さら書いてあることをひっくり返したほうがよいと意見を述べているのではなく、まだリーディングプロジェクトは具体的な検討事項を明記しなくてよい段階なのではないか。その辺は町田市の考えがあると思うが、リーディングプロジェクトの中でそういうことを検討する可能性があれば、完璧ではなくてもほぼ一致している状況をつくれると、かなりやりやすくなるのではないか。結果として、困りごとをなくそうプロジェクトが進みやすくなると思ったので、意見として述べさせていただいた。

会長：大事なご指摘である。各自治体でエリア論は非常に重要だが、できているところとなかなか進まない自治体がある。

事務局：その点は我々の中でも、この計画を検討していく係長級の作業部会の中で、お話をしてきた経過がある。各福祉分野のエリアは異なっているが、実は旧5カ町村のエリアで一致している。高齢者支援センターは12カ所あり、障がい者支援センターも5カ所ある。子育て相談センターもそうだが、この5カ町村の区割りも、意外と一致している部分がある。

森委員がおっしゃるとおり、将来的にエリアの部分を視野に入れながらこのリーディングプロジェクトは検討していきたいと考えている。非常に大事なご意見だと思っている。

会長：町田市の一つの大きな課題として、民生委員・児童委員の欠員数がやや多い。これがエリアと関係あるかどうか、各エリアで欠員がどうか、これを調べていただきたい。あとは団地のこともある。非常に大事なご指摘なので、計画のときにシステムを検討していくということは貴重なことであり、そうでないとなかなかできないことである。森委員がおっしゃったようにリーディングプロジェクトはその辺りも検討する。エリアの在り方をもし何か一言書けるのであれば、検討していただければと思う。

佐藤職務代理からは、いかがか。

委員：事前に、パブリックコメントでたくさんご意見を頂戴したので、それに対する市の考え方を丁寧に記述してお返すべきということをお話させていただいた。また、森委員がおっしゃっていたように、町田地域全体を見渡すに当たり、その地域の考え方はとても重要だと私も思い、話を伺っていた。

その中で、このコロナ禍において町田市に転入される方の割合も比較的増えていることも聞いている。実際どうなのかは別に置いておくが、転入と転出の割合は、エリアによってはすごく差があると思っている。そこで担い手の方をどのように増やせるのかということも視野に入れて計画を立てたり、どういう方たちを引き込んでいくのかということも少し検討できるかと思った。地区別懇談会も進めていく中で、町田市の人の出入りが今どようになっているのかも、非常に貴重な情報ではないかと思う。転入、転出がエリアでどのような状況にあるのかという情報も、地域の皆さまが分かれば、それはまた一つ地域のことを考えていく材料になると思って聞いていた。

会長：大事なことである。この前、世田谷区の関係者に話を聞いたが、今、世田谷区は人口が減少しているということで、行政が大変危機感を持っている。意外なことであるが、コロナ禍の影響ということである。

先日の町田市社会福祉協議会の会議で私も気付いたのだが、町田市は外国人の方が増えている。新たに入国している人はいないのだが、他の地域で仕事を失い町田市に来ている外国人の方が増えている。佐藤委員もおっしゃっていたが、転入、転出が地域で違いがありそうである。新たな動向を押さえながら、住民の皆さんに地域の変化と現状を伝えていく。これは市民協働推進課や社会福祉協議会も含めて、町田市の課題、特徴、地域ごとに伝えていく努力は非常に重要である。コロナの影響もあり、これだけ関心を持っている方もいるということは確認できたと思う。そういうことも今回のパブリックコメントで参考になったのではないかと思う。

委員：地域ホッとプランの資料を見させていただき、パブリックコメントのいろいろなご意見や市の考え方も伺いました。この資料の中で「自分ごと」として地域の活動に関わるとあるが、地域に関わっていない人もかなりいる。最近特に私が思うのが、「自分ごと」ということは、責任がのしかかってくる感じを受ける。それも含めて、ここに出ている市民一般、事業者、市の多様な主体が一体となり多世代が多く関係者ととも地域課題に取り組むというのは、少し抽象的な感じも受ける。

そこで、これから一部の人だけではなく、地域の大勢の人にいかにしてこの地域ホッとプランを周知するのか。若い人だけでなく、高齢の方もボランティアをやりたいなど、そういうことのきっかけ、つながりがなかなか見えてこない。そのため先ほど、いろいろな組織、地区協議会や地区懇談会など町内会中心にそういうお話が出たが、その辺はどのように考えているかお伺いしたいというのが、一点である。

もう一点だが、今後このプランを公表して実際に行動に移していく形になる。先ほど、1月以降の地区別懇談会のテーマを伺ったが、全体としてこのプランをどのように今後につなげていき実行に移していくか、いつごろを目指して移していくかがよく分からない部分がある。以上2点についてお伺いしたい。

事務局：それでは1点目の自分ごとについて、まずお答えしたい。新井委員のおっしゃるとおり、「自分ごと」というと、責任を伴うとか、負担に感じてしまうと思う。実際、それでなり手がなかなか増えないのが現状としてあるのはご指摘のとおりと感じている。

そのため、今回前半でご説明した地区別懇談会を通して、少しでも増やして拡大していきたい、一つのきっかけにしたいと考えている。特に地域活動に関しては、今まで広報、周知活動と言ってきた。それはもちろん大事なことだが、経験して、体感してみても分かる部分が多くあるので、少しでもその場に来ていただくと考えている。いつの間にかお祭りのように楽しくなって、参加していくようなものを目指しているところがある。今回、地区別懇談会を契機に盛り上げていきたいと考えているのが、いかにして増やしていきたいかというところの答えになる。

あとは、地域ホッとプランについては、これだけの膨大な体系がある。このプランは理念計画であり、それぞれ事業ごとに個別の計画が紐づいていて、それぞれの計画のスパンがある。あくまでこれは理念計画であり、それに基づく下位計画がまた設定されていくというお答えになる。事務局からは以上である。

委員：了解した。

会長：新井委員がおっしゃった参加者を増やすということは、ずっとこの計画の中でも書いてあることである。例えば NHK の朝の番組でやっていて私もなるほどと思ったのだが、今年いろいろなところに寄付をする方が実は増えている。コロナ禍で寄付をした方が、日本もいよいよ 1 兆円になるということで、今までにない金額である。やはりこのコロナ禍で世界全体が、一斉に閉じ込めざるを得なかったり、人と接することができなかつたりした。そういう中で私は、困りごとを想像できる素地はできたのではないかと思う。そこは一つチャンスだと思う。

例えば中野区では、町会、自治会と社会福祉協議会が協働して、2つの町会連合会が、生活困窮者やひとり親世帯で経済的に困窮する方への食料配布を行った。これも今までにはない動きであり、これは社会福祉協議会の職員が一生懸命に町会の役員会に出たことによるものである。コロナ禍での新たな動きだと思うので、こういうことをきっかけにしてはどうか。いろいろな手段もあれば、いろいろな住民層がいる。100 パーセントではなく、モアベターでよいと思う。それを少しずつつなげていながら、また、いろいろな方法も考えていく。その辺りはこの地域ホッとプランに書かれている。

計画の実施については、地域ホッとプランの 99 ページに書かれている。実施状況などの確認を毎年度行い、結果について改善を図るということと、3 年後をめどに必要なに応じて計画の見直しを行うとしている。また審議会において審議を行うということなので、この計画自体の実施、その評価とサイクルについても 99 ページに書かれているので、ご確認いただければと思う。

それでは、次回が最後の審議会になるが、本日いただいた意見も踏まえながら、私のほうで最終的に調整をさせていただきたい。今回は目標値についても。事務局、次回の審議会の予定や内容についてご説明いただけるか。

#### 4. その他

##### (1) 次回の予定

事務局：改めてパブリックコメントについては、民生委員の皆さま、地区協議会の皆さまからも多大なるご協力をいただいた。また、審議会の委員の皆さまにもいろいろな周知をしていただいたと思っている。非常にたくさんのご意見をいただき、改めてお礼申し上げます。

宮城会長からお話があったが、今回は最終回となる。開催については、1 月 18 日火曜日を予定している。会長からあったように指標、目標値も含めて記載したうえで、答申案についてご審議をいただく予定である。詳細については、追って担当から通知させていただく。

会長：今回は 1 月 18 日ということだが、次回もオンラインか、参集型での実施か。

事務局：次回は最終回ということで、コロナの状況にもよると思うが、ぜひ集まって、最後は顔を合わせながら、最終回を迎えさせていただきたいと思う。ご協力をよろしくお願いいたします。

会長：そういうことでもう1回あるが、このパブリックコメント結果をホームページに公表することについて、お認めいただいてよろしいか。

(異議なし)

会長：コロナの状況によってという条件付きであるが、次回1月18日が最終回である。審議事項としては、目標値の設定である。この作業も、事務局がなかなか大変な作業をしているのだが、その辺りをお諮りすることと、地区別懇談会のことである。地区別のホットプランに向けてということも大事な協議事項になっていくと思うので、よろしくお願いいたしますと思う。

## 5. 閉会

以上